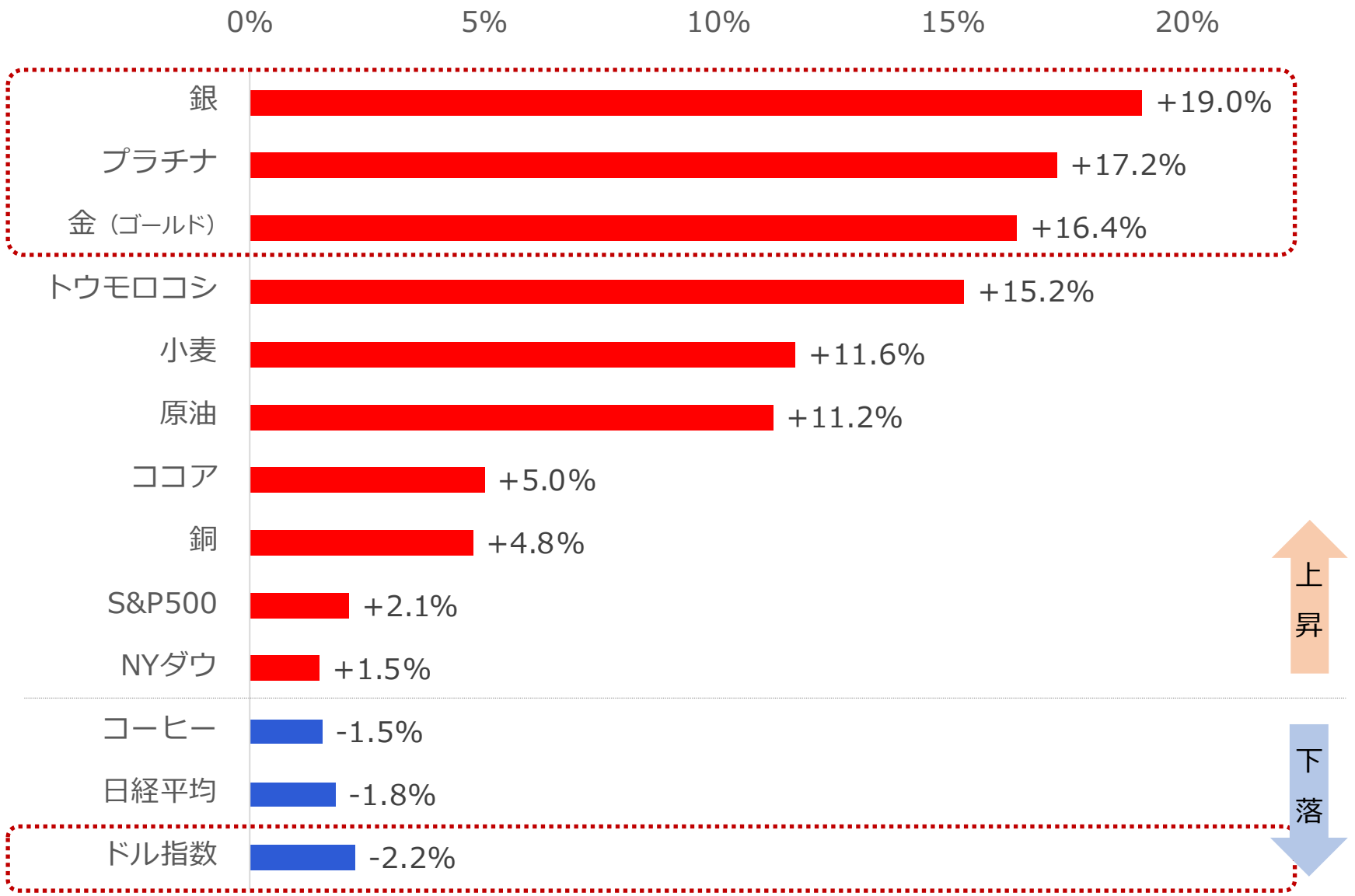


● 主要銘柄の騰落率（短期）（2026年7月13日と8月21日の終値を比較）



出所：Investing.comのデータをもとに筆者作成

このおよそ1カ月間。コモディティ、特に貴金属の騰勢が強い。

● ドル建てプラチナ、金（ゴールド）価格推移（月次平均）

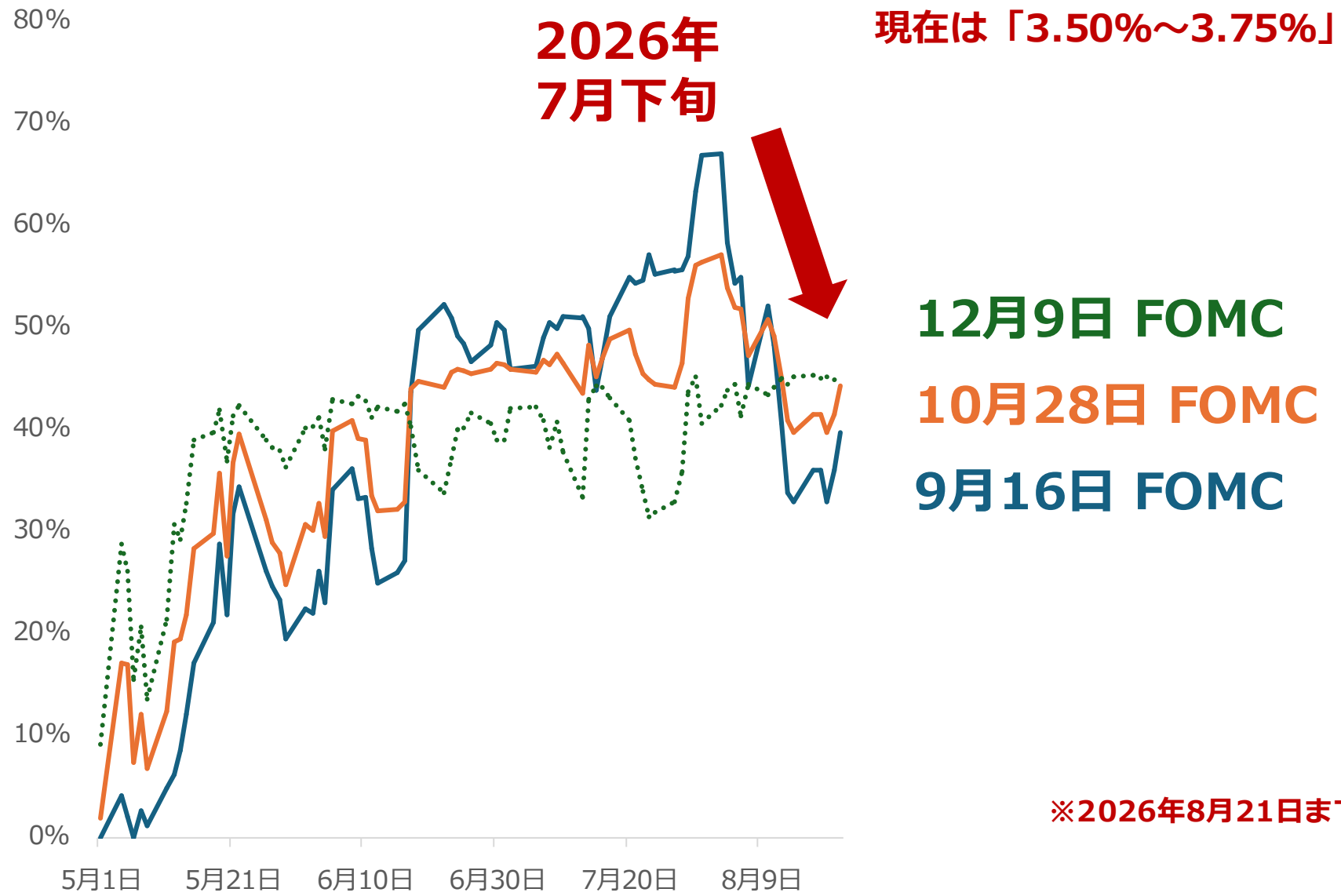
単位：ドル/トロイオンス



出所：LBMAなどのデータより筆者作成

プラチナと金（ゴールド）は、3月～7月に発生した急落から回復しつつある。

● 米国の政策金利の誘導目標が「3.75%~4.00%」に引き上げられる確率の推移



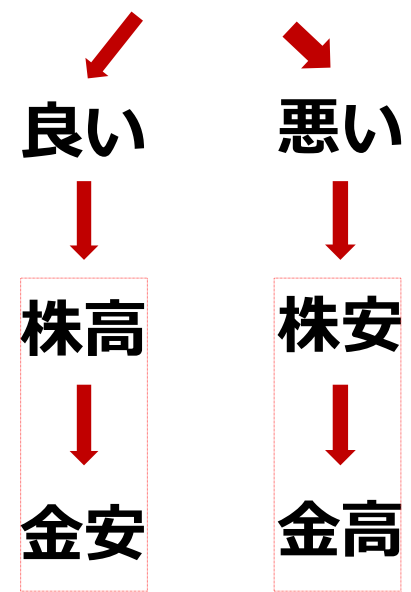
出所：CMEのFedWatch ツールより筆者作成

「思ったよりも弱い」雇用と物価関連指標が出始めたことがきっかけ。

● 近年の米国株とドル建て金（ゴールド）などの値動きの関係

教科書

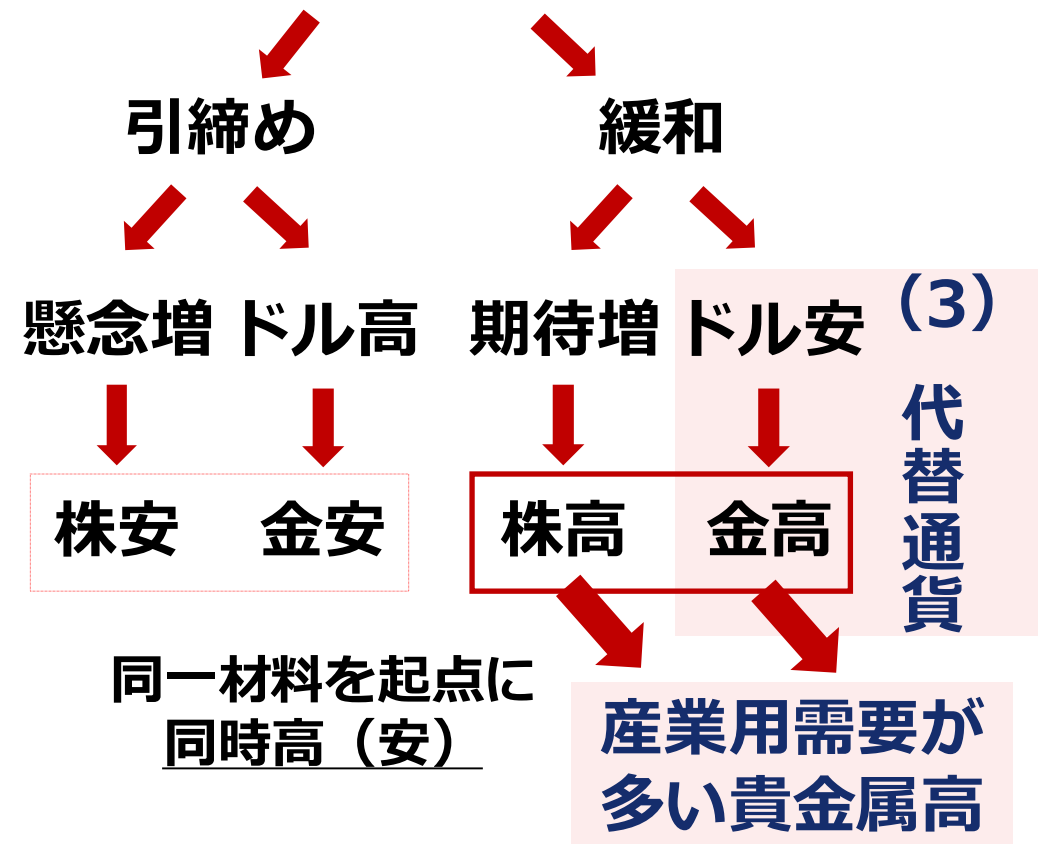
景気動向



主従関係の結果
逆相関

近年

金融政策

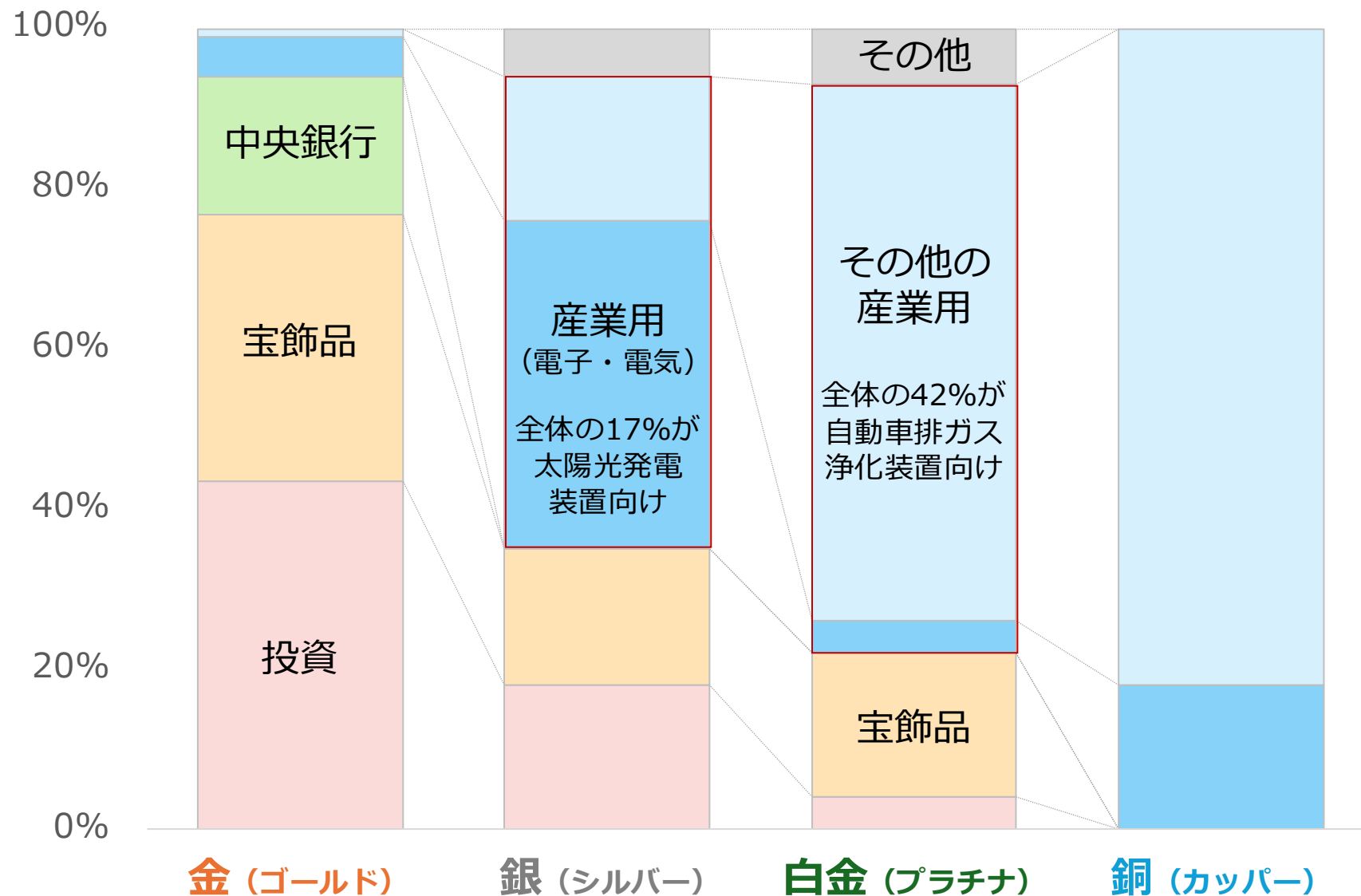


同一材料を起点に
同時高（安）

出所：筆者作成

近年、材料の頂点は「金融政策」。緩和的になれば株も貴金属も上昇しやすい。

● 主要四金属の需要内訳（2025年、銅は2024年）



出所 : World Gold Council、Johnson Matthey、Silver Instituteなどのデータをもとに筆者作成

金（ゴールド）以外の貴金属は景気動向の強弱に影響を受けやすい。

● 各ドル建て貴金属価格の変動のポイント

金（ゴールド）

- ・ 中央銀行（全体）の買い越し継続（2010年～）
- ・ 「非伝統的な有事」継続・拡大懸念（2010年～）

銀（シルバー） ・ 金（ゴールド）に追随

- ・ 米国の個人投資家の売買が変動要因になる場合あり（短期）
- ・ 太陽光発電向け需要増加継続（長期）

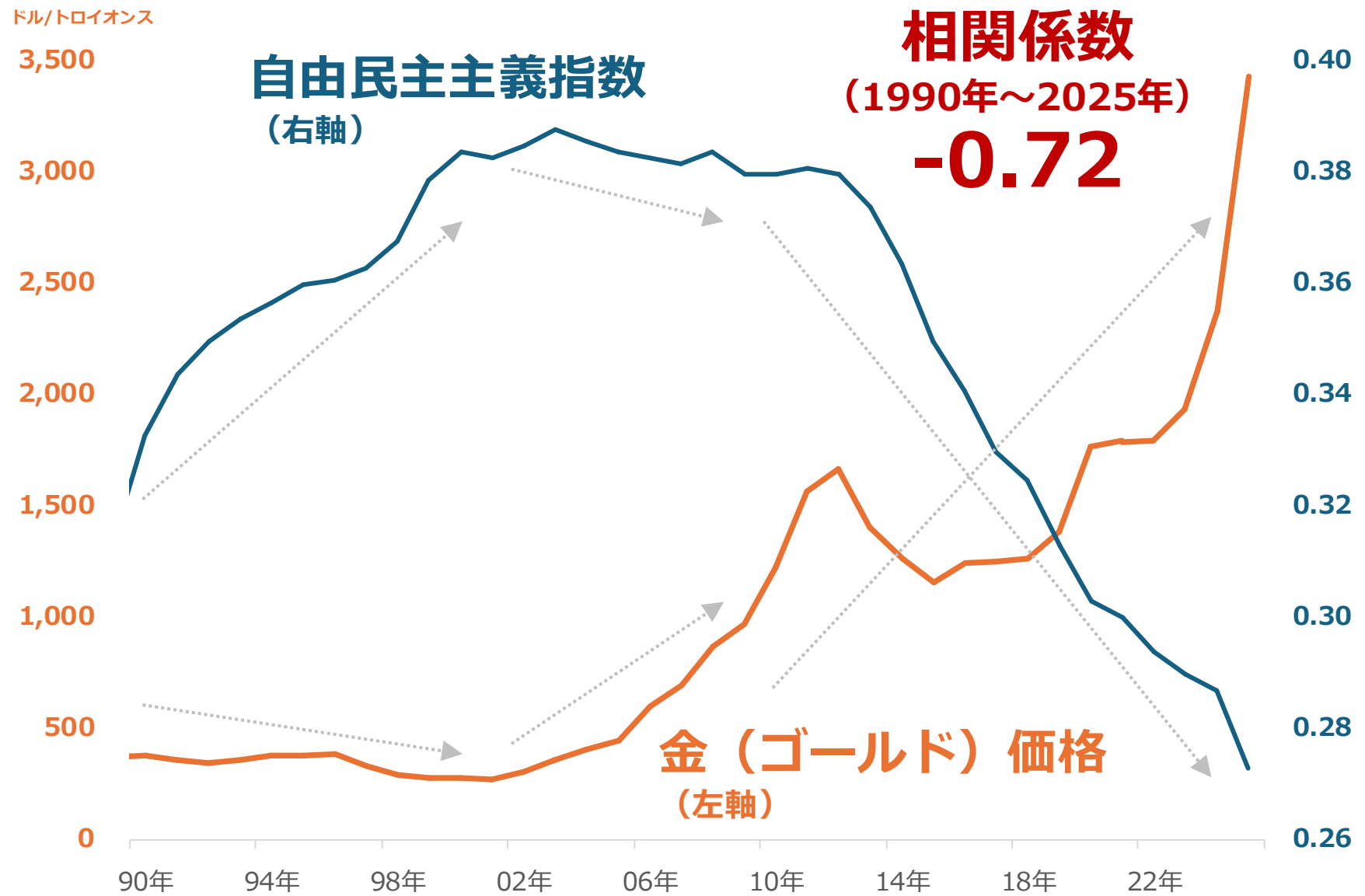
白金（プラチナ） ・ 金（ゴールド）に追随

- ・ 自動車排ガス浄化装置向け需要回復（2015年とほぼ同水準に）
- ・ 鉬山生産量が減少傾向（自国優先主義台頭の影響も）

出所：筆者作成

金（ゴールド）を中心に貴金属価格は、長期視点で上昇傾向が続くか。

● 金（ゴールド） 価格と自由民主主義指数の推移



出所：世界銀行およびV-Dem研究所のデータをもとに筆者作成

相関係数「-0.72」は、やや強い逆相関。